

太閤山あおい園 施設評価（令和2年度）

決算報告

資金収支についての詳細は別紙（決算書参照）

新制度に移行後、法人全体の資金収支は改善に向かっており、順調な決算である。新規職員採用が困難な中、人材紹介会社、職員募集広告などの費用の割合が増大している。

保護者アンケート

保護者アンケートでは、8割以上の保護者の方に、A、Bの評価を頂いた。個別の改善点については、今後具体的に解消に努めたい。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による登園自粛期間、感染症予防を重点的に行うための保育内容の変更など、園、子ども、保護者、すべてにとって初めて経験する事ばかりの1年となった。

いち早くITCによる連絡ツールや、フェイスブック、インスタグラム等の導入を行っていたことにより、コロナ渦においても、園側から様々な発信を行うことができた点については、評価する声も多かった。一方で、保護者と保育者とのコミュニケーションが薄くなってしまった点は否めず、いまだ感染症対策が求められる中、工夫が必要となっている。

保護者によっては、「ゆめねっと」ではなく、直接連絡をしたい、手書きの連絡帳が良かったという声もあるが、働き方改革を行いながらも、子ども達と向き合う時間の確保を最優先にしていという園の方針を説明し、理解を求めてきたい。

職員自己評価

グラフの形は昨年度とよく似ており、問題点は共通しているようだ。しかし昨年度に比べ、ほとんどの大項目の達成率が下がっている。

新型コロナウイルス感染症による登園自粛期間や、新しい生活様式への対応もあり、思うように保育をすすめられない、保護者とのコミュニケーションが難しい、対面での研修を開催できない等、困難の多い年だった。

保育者として必要最低限の部分についてはA、Bがほとんどを占めていたが、職員個人の自己評価に比べ、園長・主任によつ評価の方が厳しい内容となった。自己評価と園長・主任による評価に特に差がある場合には、個別に理解を促したい。

特に、⑧子どもの発達、成長を理解した保育を行っているか、⑫気になる子どもの保育、障がい児保育などについて理解し、実践できるか、⑭保護者に対する適切な支援とはどのようなものを把握し、実行できているか、⑮指導計画などを適切に策定し実行に反映するなど、計画的な保育が実践できるか、という項目の評価が低く、ここ数年の共通した課題となっている。

園長、主任による評価で職員の自己評価より特に評価が下がっていたのは、①職場内の課題に対し、自らが主体的に行動して問題解決に導いているか、⑨健康管理やケガ防止などの、安全管理に関する行動

ができているか の2つだった。

自ら考えて行動する職員は増えてきているが、まだすべての職員が主体的に行動しているとは言えず、正規、パート、職務分掌を超えて、自ら考え、主体的に課題を見つけ、行動できる組織となるよう今後も努力を続けたい。

安全管理については、個々の職員や担当クラス内では行っているが、様々なヒヤリハット、感染症対策のアップグレードがあった際に、職員全体で共通理解し、対応を行えるようにしたい。

今後に向けて

- ◎ 若い人材の育成・新規採用者の確保、定着のための研修
- ◎ 主体的に行動できる職員の育成
- ◎ 遊具、玩具の点検、消毒の強化。ヒヤリハット事例の共通理解
- ◎ 気になる子、障がい児、アレルギー児への対応の研修、専門機関との連携の強化
- ◎ 保護者との新しいコミュニケーションの方法の模索（感染症対策を踏まえ）